

6月29日(月)

おはようございます。

清風は安心と尊敬と信頼ができる人物を目指して教育していますが、安心と尊敬と信頼できる人物は、ミスをしないう人物ではありません。ミスは誰でもするものです、僕も含めて誰でもします。そのミスときちんと向き合えるかどうかということが、安心と尊敬と信頼のポイントなのです。たとえば、調子に乗りすぎて友達に迷惑かけてしまった。それで、保護者が呼び出しになってしまったというようなときに、自分のいけないところを直すチャンスだと考えるのです。そのままの君ではよくないということなのです、僕も含めてです。

今の世の中、風潮的には、そのままの君でいいというようなことを言っていますが、それはごまかしです。人間は、だいたいいつでもそのままの君ではだめで、変わっていかないといけない課題を持っているものです。そのままの君でいいのだったら、変わる必要がない。変わる必要がないということはもう進歩しなくてもいいということです。何でも進歩するためには、自分で気付いて、何かにチャレンジしていく必要がある。

もうひとつは、ミスしたときにそのミスときちんと向き合っていくことが大事です。仲のいい友達であって、しかも悪意あったわけではないが、少し調子にのって傷つけてしまった。そこで保護者の方も呼ばれて注意を受けた。そういうときに、小さなプライドから心を殻のように閉ざしてしまったら、そこから学ぶことは絶対にできない。実はそのときこそが学びのチャンスなのです。

社会人になってしまうと、他人から注意してもらうことはありません。社会人になって、クレームを言われることがあります、「君はそのままではいけない、人間としてもっとこういうふうやっていったほうがいい」というようなことを指摘されることはほとんどありません。社会人になったら黙って切られるだけです。黙って排除されるだけです。君はここがいけないから、こうしなくてはいけないと言ってもらえるのは、学生のときだけなのです。学生だけが言ってもらえる特権を持っている。だからつまらないプライドは捨てて、自分が大きく変わるチャンス、新しいステージに立てるチャンスだと思って、それを失うことがないように気をつけて欲しいと思っています。

僕らの学校は、今、竹中工務店に工事をしてもらっています。竹中工務店は大阪ではプール学院の建物も造りました。清風も南校舎は竹中工務店にやってもらいました。また大阪のロイヤルホテルとか、ニューオオタニとか、また大きなところでいったら皇居の一部やシンガポールのチャンギ空港も担当しています。これほど大きなきっちりした会社です。そこに、竹中勇一郎さんという人がいます。彼は若いのにその会社の執行役員です。彼は、17代

目だそうです。初代は、織田信長の普請奉行やった人です。竹中半兵衛とは違う人らしいですが、竹中という名字で織田信長の普請奉行を努めた方が1代目です。そして17代まで続いて、これほど長く大した信用を勝ち得た竹中の、他の会社にはないポイントは何かと聞いたことがあります。

そのとき「誠実であること」とかいろいろおっしゃいました。僕もちょっと失礼かなと思いましたが、誠実さだけでは月並みですから子どもたちに話してもあまり心に残らない。だから生徒に話して心に残るような、なるほど、それは竹中工務店にしかないというような話はないのですかと聞いたのです。そうしたら竹中勇一郎さんが、絶対に他の会社にはないことをお話ししますとおっしゃった。それは、川西に学校の体育館の2倍ぐらいの大きな建物が建っていて、そこには自分たちが今まで担当した工事で、建築物も含めて、ミスしたものを全部展示しているということだった。うまくいった建造物ではなく、自分の会社がやって失敗だったというミスの全てを、その体育館の2倍ぐらいの大きな建物のなかにずっと展示しているということです。

そしてある程度、技術が進歩してきたら、どこがミスだったのか、どうすれば良かったのかという試験を受けさせるということです。きちんとそのミスに気付いて、そして学ぶことができたならその人が昇格できるという試験です。これはおそらく他の会社にはないと思うとおっしゃいました。僕は「ああすごいな」と思いました。うまくいったものを展示するというのはたくさんあるでしょう。しかし竹中工務店は、ミスしたものを全部展示している。なぜか。そのミスときちんと向き合わないといけないからであり、そのミスをごまかしてはいけないからなのです。これはやはりすごいことだと僕は思った。

前述したとおり、安心と尊敬と信頼できる人物になろうと思うのなら、自分のミスと向き合わなくてはなりません。自分はそういうつもりではなくても友達にえらい迷惑かけてしまい、保護者も呼び出されるようなことになった。そんなときに、殻のように閉ざして小さなプライドで学ぶチャンスを失うのは非常に乏しく貧しいことです。そういうときはつらいけれども自分の犯したミスとちゃんと向き合うのです。なぜそうしたのか。どうすべきだったのか。もしそういうことに気付いたら新しいステージに立っていくことも、成長していくこともできるのです。そういう人間が、安心と尊敬と信頼ができる人間なのです。

21世紀は情報化社会ですから、どんなに隠してもその人がどんな人間かというのは、たちまちにわかってしまう時代です。だから、ミスしてもごまかさないうで自分の間違いにきちんと向き合うかがどうかがとても大事なのです。これが21世紀のほんとうのリーダーになっていけるかどうかのポイントです。竹中工務店の話は非常に参考になりますね。諸君たちも、先生からご注意うけたときに、殻のように心を閉ざしてしまうことなく、大切な気づきのチャンスだと思って、成長のチャンスを自分から失ってしまわないようにし

てください。先生からご注意されたときに、嫌でも感情的にならず、一呼吸を置いて、どうしてだめなのか、先生は何をおっしゃっているのか、どういう意味なのかというふうに考えることができたなら、いちじるしく成長できるのです。そこを土台として一挙に成長していく人間になってもらいたい。それこそが安心と尊敬と信頼できる人物であり清風魂です。格好悪くても、きちんと自分のミスと向きあえる人になろうと自覚して日常生活を送ってもらいたいと思います。

少し話が長くなりましたが、今朝の話はこれで終わります。

(学校長)